



4月、社会人1年生、大いに羽ばたけ！

4月は、中には転職などで若くはない人も一部含まれるものの、多くの若者にとって社会人としての新たなスタートの月になります。

県庁でも、今年度は100人が新規採用職員として初々しい姿で入庁式に臨みました。

毎年同じ光景のようではありますが、時代とともに少しずつ異なってきているようで、50年ほど前の自分の入庁時のことを思い出してみることにします。

まず、一同に緊張していたことは確かですが、服装は今のよう濃紺系のリクルートスーツ一色ではなく、ダークスーツの人もいれば、ダークグレーの人もおり、女性もさすがに赤系など派手な色はなかったものの、今よりはバラエティに富んでいたように思います。

男子の髪は、どちらかと言えば短めで、今流行の髪を立気味の人はいませんでした。

今の若い男性は髭が薄い傾向ですが、当時は髭剃りの跡が青々しい人や、口の周りが薄黒い人もいました。

そして、各課所室に配属されると、周りの先輩職員は皆偉く見え、ましてやひな壇の課長補佐や課長は、口をきくのも怖いように感じられたものです。

ちなみに、当時の職階は今のよう複雑ではなく、下から主事補、主事、主任、係長、課長補佐、課長というように、極めてシンプルで解りやすいものでした。

さて、歓送迎会では1人ずつ自己紹介、今の職員はスラスラと話しますが、当時は緊張しながらボソボソと話す職員も多く、先輩職員から「県庁職員になったんだから、そんな話し方では県民に意味が伝わらないぞ！」と注意される職員もいました。

そして、今は跡形もない秋田市高清水にあった古い木造の自治研修所での新規採用職員研修です。

護国神社や秋田城跡が隣接し、なかなか風情ある環境ですが、部屋は和室の相部屋、体育館は床板が反り返っているなど老朽化しており、お世辞にも快適な研修環境とはいえませんでした。長い県庁生活のなかでは思い出深いものの一つです。

また、当時は休日は日曜日のみ、土曜日は半ドンでしたので、土曜の午後から花見、生ビール会、日曜日までの一泊慰安旅行、課所対抗の野球やバレー、そして全庁運動会など、家族も含めさまざまな親睦行事があり、楽しみの一つでもありました。

一方で、その時に一番働かなければならないのは新規採用職員、汗水流して準備に奔走、しかし、それが仲間意識の醸成にもつながり、仕事上でも悩みや疑問を感じた時には気軽に相談できる人を持つことにもつながったような気がします。

今少子化の中で、民間企業も役所も、全ての組織体は若者の力を欲しています。

社会人1年生、秋田も日本も、未来はあなた達にかかっています。大いに羽ばたいて！